

2018年度 決算説明会

2019年5月15日

三菱ガス化学株式会社

証券コード：4182

目次

1 | 2018年度 決算概要

2 | 2019年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | 中期経営計画の目標値修正/メタノール事業について

1 | **2018年度 決算概要**

2 | **2019年度 業績予想**

3 | **セグメント別 業績概要**

4 | **中期経営計画の目標値修正/メタノール事業について**

2018年度 業績のポイント

- ◆ 増収減益。持分法利益の増加や特別損失の減少などにより、当期利益にかけては減益幅が縮小。
- ◆ 営業利益：
 - (+) ・ 特殊ポリカーボネート（P C）の販売数量増加 等
 - (-) ・ P C、高純度イソフタル酸の市況下落
 - ・ 原燃料価格の上昇 等
- ◆ 持分法利益：海外メタノール生産会社の利益が増加
- ◆ 前回予想比：営業利益、持分法利益ともに下振れ
- ◆ 配当：年間70円（中間35円、期末35円^(*)）
（対前年+11円、前回予想と同額）

*2019年5月24日の取締役会で正式に決定予定

2018年度 業績サマリー

● 増収も、市況下落や原燃料価格の上昇等により減益

【単位：億円】

	2018年度 実績	2017年度 実績	増 減		2018年度 前回予想*
			金額	%	
売上高	6,489	6,359	130	2.1%	6,500
営業利益	413	627	▲213	▲34.0%	450
(持分法利益)	(284)	(182)	(101)	-	(320)
経常利益	691	807	▲115	▲14.3%	760
税金等調整前当期純利益	690	734	▲43	▲5.9%	760
親会社株主に帰属する当期純利益	550	605	▲55	▲9.1%	610
一株当たり当期純利益(円/株)	257.46	281.39			
R O E (%)	11.3	13.6			
為替レート(JPY/USD)	111	111			

* 2019年2月6日公表

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

2018年度 営業外損益・特別損益

【単位：億円】

	2018年度	2017年度	増 減
営 業 外 損 益	278	179	98
持分法による投資損益	284	182	101
金 融 収 支	18	15	3
為 替 差 損 益	▲ 5	1	▲ 7
そ の 他	▲ 18	▲ 20	1
特 別 利 益	24	28	▲ 4
投資有価証券売却益	9	19	▲ 9
固 定 資 産 売 却 益	7	5	1
そ の 他	7	4	3
特 別 損 失	▲ 26	▲ 101	75
債務保証損失引当金繰入額	▲ 12	▲ 10	▲ 1
投資有価証券評価損	▲ 6	▲ 82	76
そ の 他	▲ 6	▲ 7	1

- **持分法利益**
天然ガス系化学品+100 等
- **投資有価証券評価損**
2017年度：カナダ シェール
ガス・LNGプロジェクトに関
する損失を計上

(注) 本表の増減は対損益増減を示しております。

2018年度末 貸借対照表

【単位：億円】

科目	2019年 3月末	2018年 3月末	増減
流動資産	3,788	3,842	▲54
現金	911	1,010	▲99
売掛債権	1,555	1,656	▲100
棚卸資産	1,192	1,037	154
その他	129	137	▲8
固定資産	4,251	4,014	237
有形固定資産	2,284	2,207	77
無形固定資産	86	84	2
投資その他の資産	1,880	1,723	157
資産合計	8,040	7,856	183

科目	2019年 3月末	2018年 3月末	増減
負債	2,507	2,665	▲157
買掛債務	800	887	▲86
有利子負債	957	1,069	▲112
その他	749	708	40
純資産	5,532	5,191	341
株主資本	4,954	4,556	398
その他包括利益累計額	75	117	▲42
非支配株主持分	503	517	▲14
負債・純資産合計	8,040	7,856	183
自己資本比率	62.6%	59.5%	

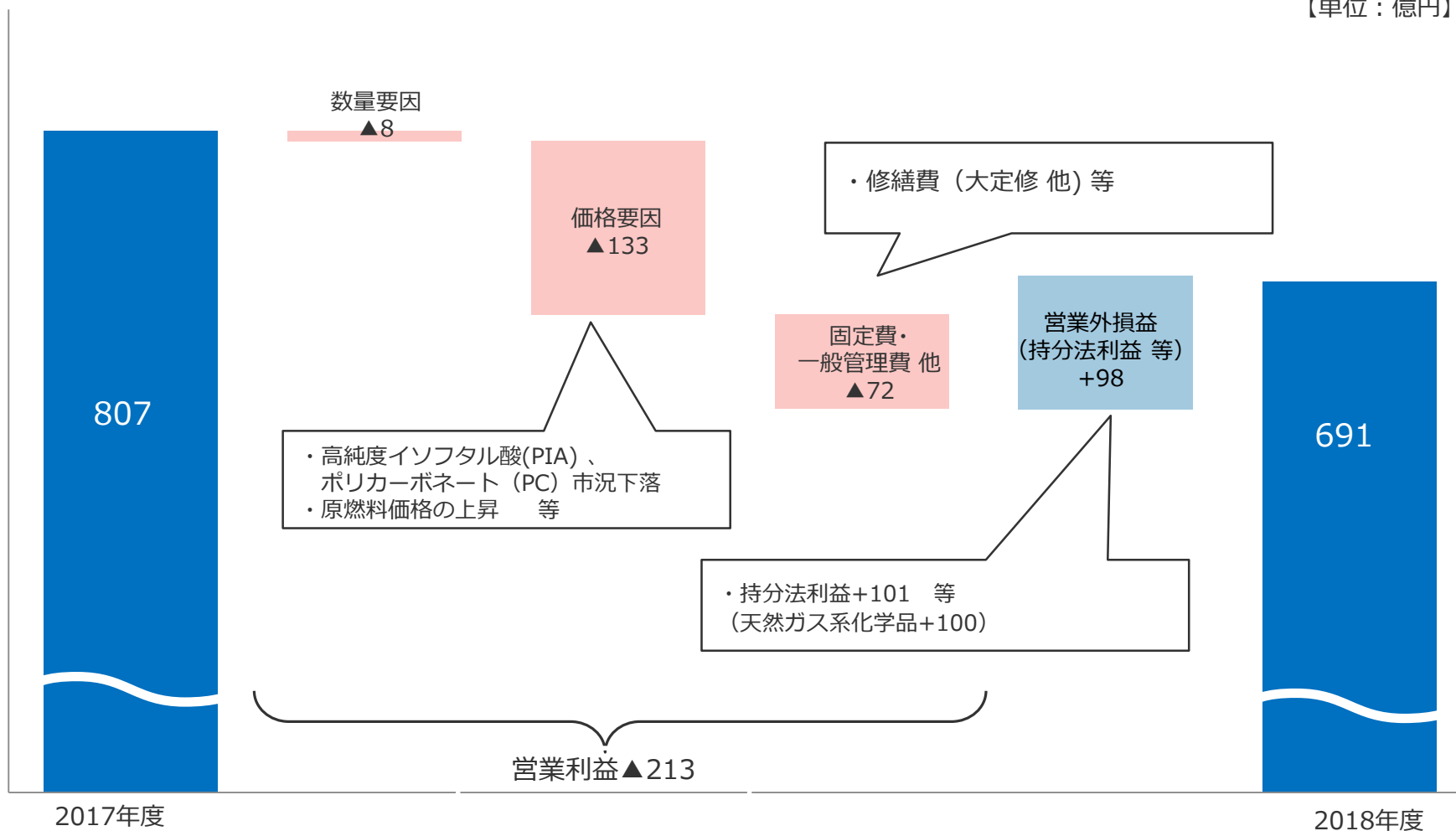
2018年度 キャッシュフロー計算書

【単位：億円】

	2018年度	2017年度	増減
営業キャッシュフロー	640	907	▲ 266
税金等調整前当期純利益	690	734	▲43
減価償却費	274	270	4
持分法利益	▲ 284	▲ 182	▲ 101
持分法適用会社からの配当金受取額	123	200	▲ 76
運転資金等	▲ 98	▲ 56	▲ 42
法人税等支払額	▲ 65	▲ 58	▲ 7
投資キャッシュフロー	▲ 427	▲ 336	▲ 91
設備資金	▲ 365	▲ 344	▲ 21
投融資資金等	▲ 62	7	▲ 70
フリーキャッシュフロー（差引）	212	571	▲ 358
財務キャッシュフロー	▲ 313	▲ 330	16
借入金・社債増減等	▲ 164	▲ 161	▲3
自己株式取得	▲ 0	▲ 70	70
配当金支払額	▲ 149	▲ 99	▲ 50
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	▲9	11
現金及び現金同等物の増減額（合計）	▲ 99	231	▲ 330
現金及び現金同等物の期末残高	803	903	▲99

2018年度 経常利益 増減要因

【単位：億円】



1 | 2018年度 決算概要

2 | 2019年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | 中期経営計画の目標値修正/メタノール事業について

2019年度 業績予想のポイント

- ◆ 増収減益。持分法利益の減益幅が大きく、経常利益以下は大幅な減益を予想。
- ◆ 営業利益：前年同期をやや下回る水準を予想
- ◆ 持分法利益：メタノール関連の減少（後述）により、大幅な減益を予想
- ◆ 配当：前年と同額の70円を予想

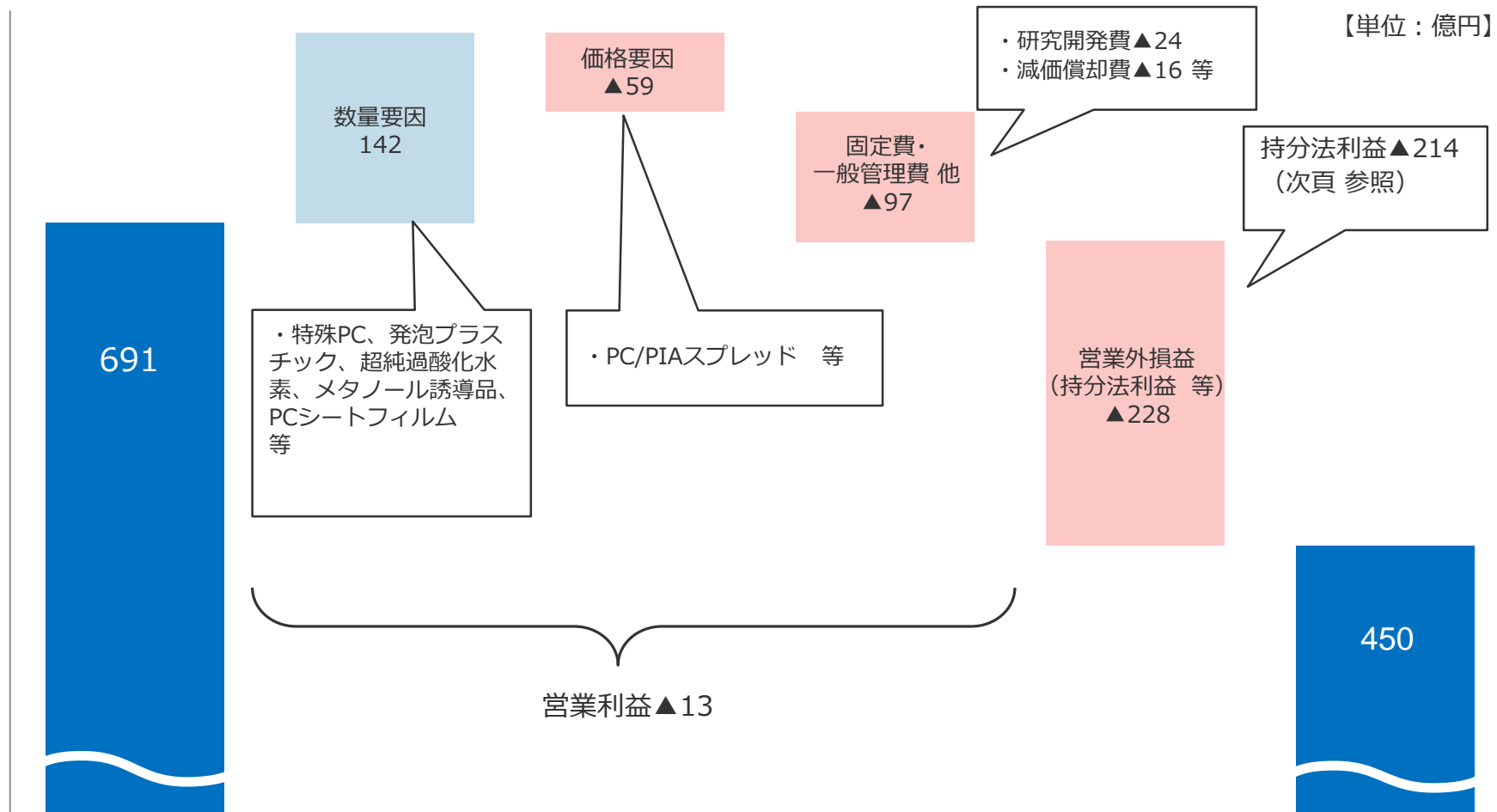
2019年度 業績予想

持分法利益の減少が大きく、経常利益以下は大幅な減益を予想

【単位：億円】

	2019年度 予想	2018年度 実績	増 減	
			金額	%
売上高	6,500	6,489	10	0.2%
営業利益	400	413	▲13	▲3.4%
(持分法利益)	(70)	(284)	(▲214)	-
経常利益	450	691	▲241	▲35.0%
税金等調整当期純利益	480	690	▲210	▲30.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	340	550	▲210	▲38.2%
一株当たり当期純利益(円/株)	160.67	257.46		
ROE (%)	6.7	11.3		
為替レート(JPY/USD)	110	111		

2019年度 経常利益予想 増減要因

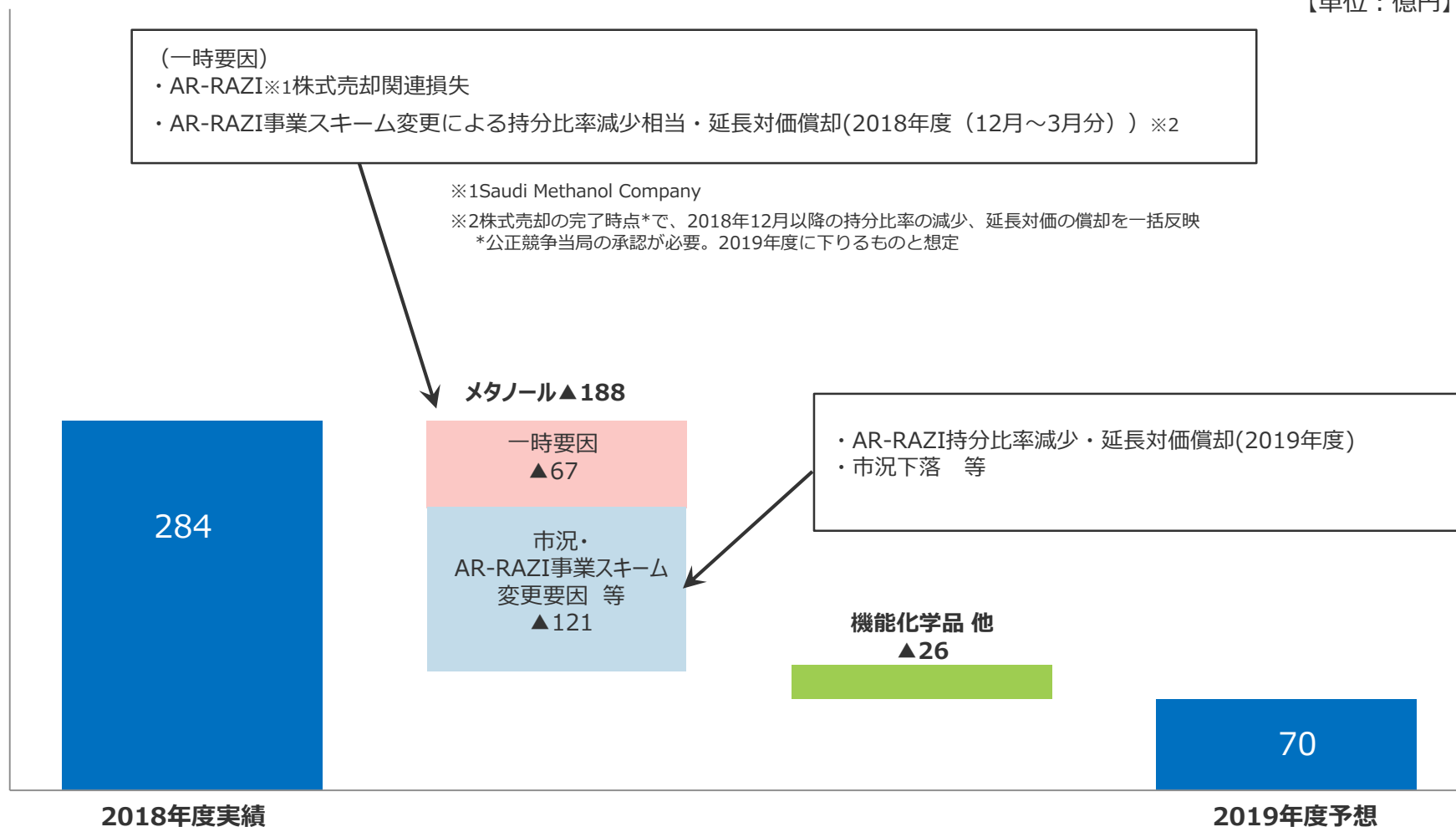


2018年度実績

2019年度予想

2019年度 持分法利益予想 増減要因

【単位：億円】



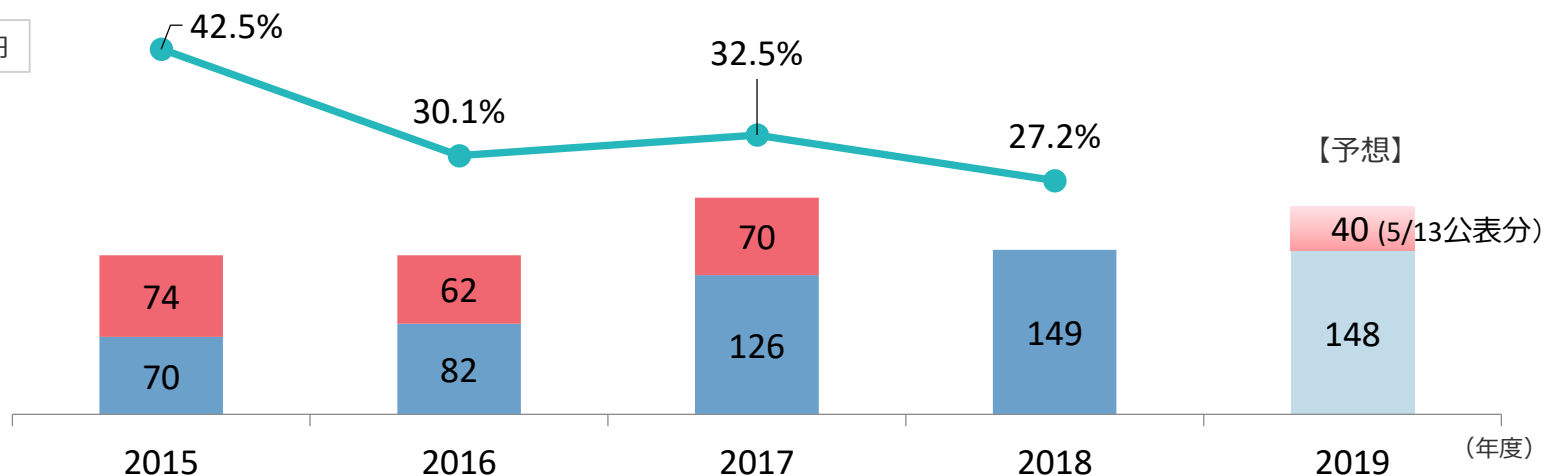
株主還元方針・株主還元

- 企業価値の向上を経営上の最優先課題と位置付け。
- 配当は、安定配当の継続を基本に業績動向等を考慮。内部留保の水準と株主還元の水準を考慮して、自己株式の取得も機動的に実施し、資本効率の向上と株主還元の充実を図る。

- 2019年5月13日：自己株式取得（最大 40億円 270万株）、消却（270万株）を決定

■ 配当総額 ■ 自己株式取得額 ● 総還元性向 (%)

単位：億円



当期純利益
(億円)

341

480

605

550

340

年間配当金
(円/株)※

32

38

59

70

70

※当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しています。

配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しています。

1 | 2018年度 決算概要

2 | 2019年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | 中期経営計画の目標値修正/メタノール事業について

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

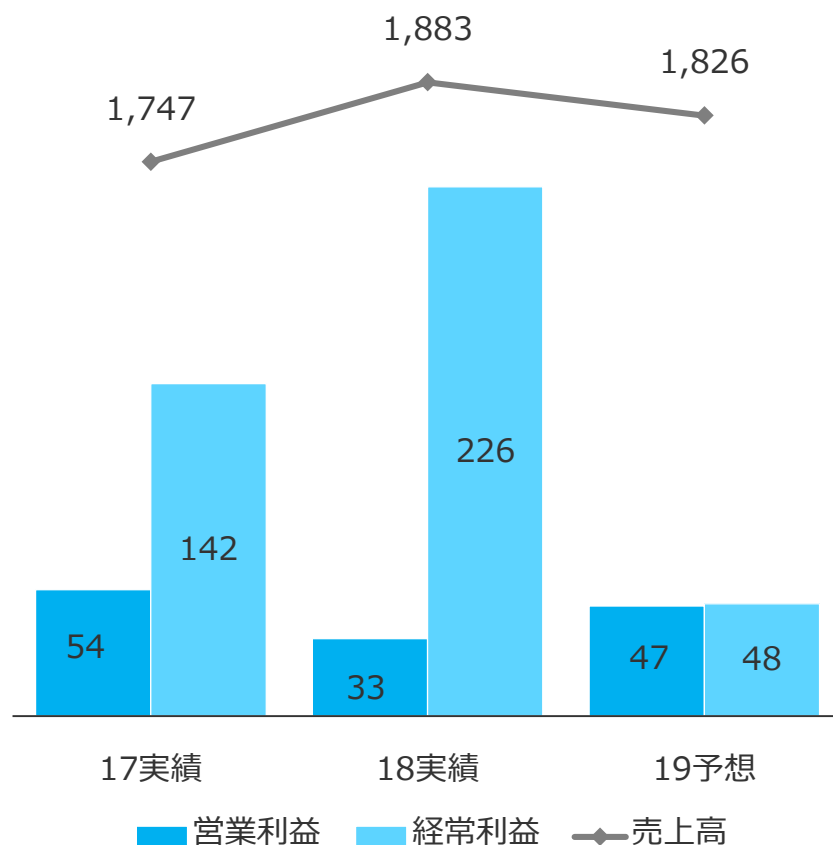
【単位：億円】

	2017年度実績*			2018年度実績			2019年度予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,029	3,329	6,359	3,283	3,206	6,489	3,200	3,300	6,500
天然ガス系化学品	789	957	1,747	925	957	1,883	881	945	1,826
芳香族化学品	1,050	1,080	2,131	1,073	1,043	2,117	1,047	1,039	2,086
機能化学品	979	1,071	2,050	1,061	995	2,057	1,057	1,092	2,149
特殊機能材	252	275	527	271	248	519	255	266	521
全社/調整	▲ 43	▲ 55	▲ 98	▲ 48	▲ 39	▲ 87	▲ 42	▲ 41	▲ 84
営業利益	302	324	627	289	124	413	180	220	400
天然ガス系化学品	18	36	54	32	1	33	16	31	47
芳香族化学品	139	117	256	101	45	146	79	77	156
機能化学品	134	162	296	141	70	212	81	109	190
特殊機能材	20	22	42	25	14	39	17	20	36
全社/調整	▲ 9	▲ 12	▲ 22	▲ 11	▲ 6	▲ 18	▲ 14	▲ 16	▲ 30
経常利益	420	387	807	465	226	691	180	270	450
天然ガス系化学品	82	60	142	157	69	226	▲ 9	57	48
芳香族化学品	135	110	245	97	42	139	75	70	145
機能化学品	172	207	379	178	103	282	103	134	237
特殊機能材	29	26	55	30	14	44	21	20	41
全社/調整	0	▲ 17	▲ 16	1	▲ 2	▲ 1	▲ 10	▲ 12	▲ 22

* 2018年度より、セグメント間取引の調整方法及び当社の共通費等の配賦方法を変更しております。2017年度のセグメント情報についても、変更後の算定方法により作成したものを記載しております。(次ページ以降も同様)

天然ガス系化学品

【単位：億円】



● 2018年度 実績

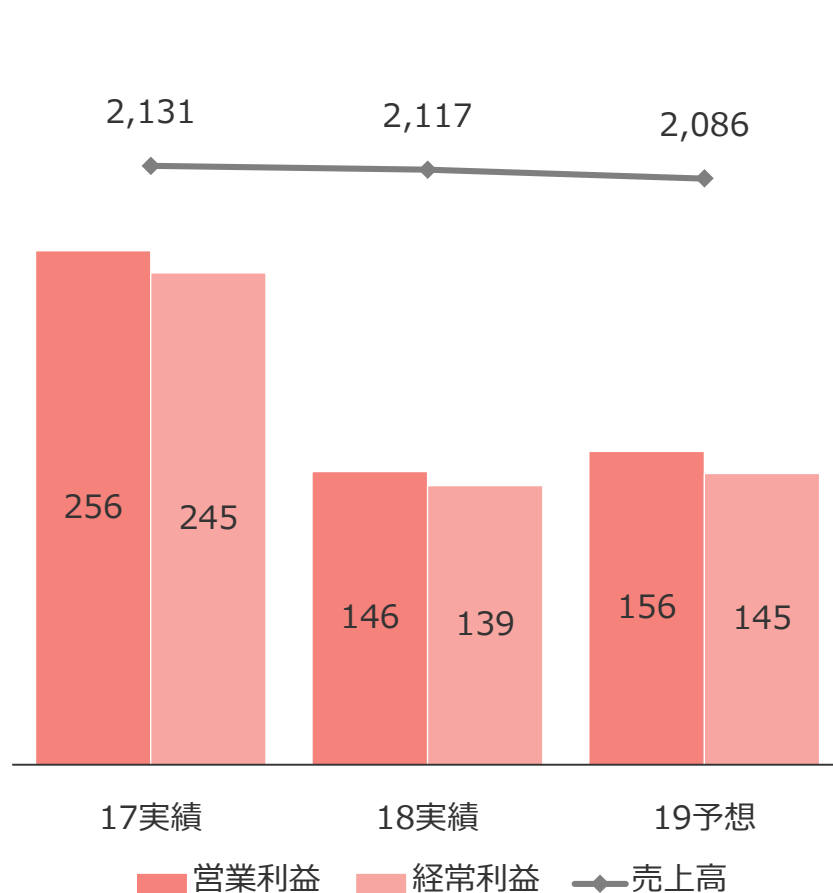
- ◆メタノール：市況上昇（17年度実績：340ドル/MT→18年度実績：371ドル/MT）
- ◆営業利益：原料高、ネオペンチルグリコール(NPG)の市況下落、修繕費等の固定費増加などにより減益
- ◆持分法利益：AR-RAZI社の持分法損益は、旧合弁契約期限後の12月以降も旧持分比率（50%）で計上。17年度の一過性要因の解消もあり、増益

● 2019年度 予想

- ◆メタノール：市況下落（18年度実績：371ドル/MT→19年度予想：350ドル/MT）
- ◆営業利益：メタノール誘導品の販売数量増加や採算改善、修繕費等の固定費減少などにより増益を予想
- ◆持分法利益：14ページの通り、大幅な減益を予想。トリニダード・トバゴ新工場の運転開始は19年度後半の見通しで、19年度への収益貢献は限定的。ベネズエラは19年3月に大規模停電が発生。現在稼働再開しているが、今後操業/損益への影響が懸念される。

芳香族化学品

【単位：億円】



● 2018年度実績

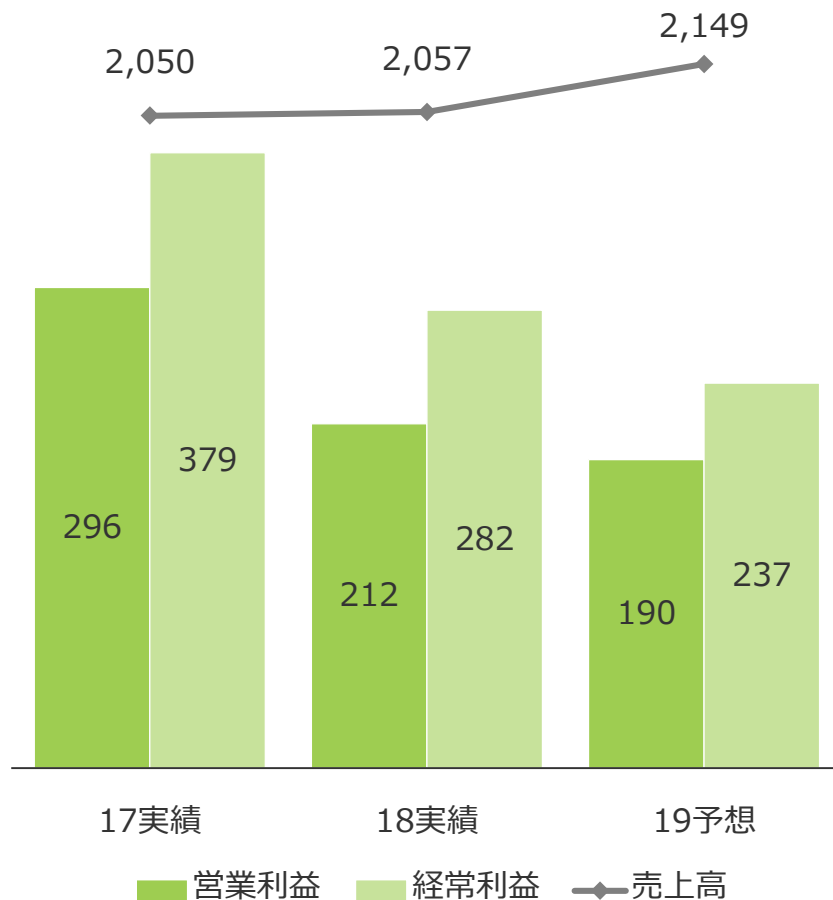
- ◆ 特殊芳香族*：原燃料費が上昇も、販売は堅調に推移し増収増益
*メタキシレンジアミン (MXDA)、MXナイロン、芳香族アルデヒド
- ◆ 高純度イソフタル酸(PIA)：スプレッド縮小で大幅な減益
- ◆ 水島工場が大型定修年に当たり固定費が増加
- ◆ 発泡プラスチック(JSP)：原燃料価格の上昇等で減益

● 2019年度予想

- ◆ 特殊芳香族：MXDAはフル生産フル販売を継続。MXナイロン、アルデヒドも引き続き堅調な販売を見込む
- ◆ PIA：スプレッド縮小により減益を予想
- ◆ 水島工場の固定費は減少する見通し
- ◆ JSP：自動車向け部材の販売数量増加などにより、増収増益を予想

機能化学品

【単位：億円】



● 2018年度 実績

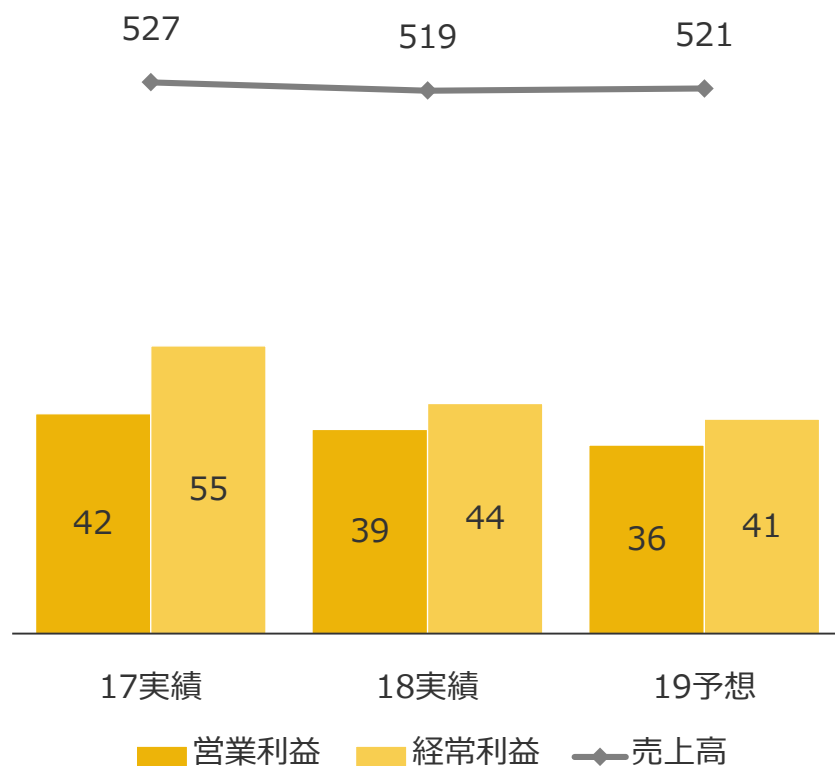
- ◆ 無機化学品：販売数量が増加も、エレクトロニクスケミカル事業の競争環境激化や米国新工場立ち上げ費用の増加等で減益
- ◆ ポリカーボネート(PC)：PC-ビスフェノールA (BPA)のスプレッドが縮小し、大幅な減益
- ◆ 特殊PC：スマホのデュアルレンズ化の拡大等を背景に、販売数量が増加
- ◆ PCシートフィルム：フラットパネルディスプレイ向けが減少し、減益

● 2019年度 予想

- ◆ 無機化学品：米国の新工場立ち上げは19年度後半を見込み、本格的な収益貢献は20年度となる見通し。立ち上げに伴う固定費等の増加もあり、減益を予想
- ◆ PC：PC-BPAスプレッドは縮小を予想。高付加価値品比率の向上に注力。
- ◆ 特殊PC：19年10月に新プラントを立ち上げ予定
- ◆ PCシートフィルム：車載向け等の数量増加を見込み、増収増益を予想

特殊機能材

【単位：億円】



● 2018年度 実績

- ◆ 電子材料：主力の半導体パッケージ向けBT材料は、上期は堅調に推移したものの、下期にスマホ・メモリー分野の需要が減退
- ◆ 脱酸素剤：国内外における競争激化や原料価格の上昇などにより減益

● 2019年度 予想

- ◆ 電子材料：上期はメモリー需要低迷が続く見通し。下期に需給改善、5G向け需要の拡大を見込む
- ◆ 脱酸素剤：国内外での拡販、医薬・車部品向けの開拓を推進

1 | 2018年度 決算概要

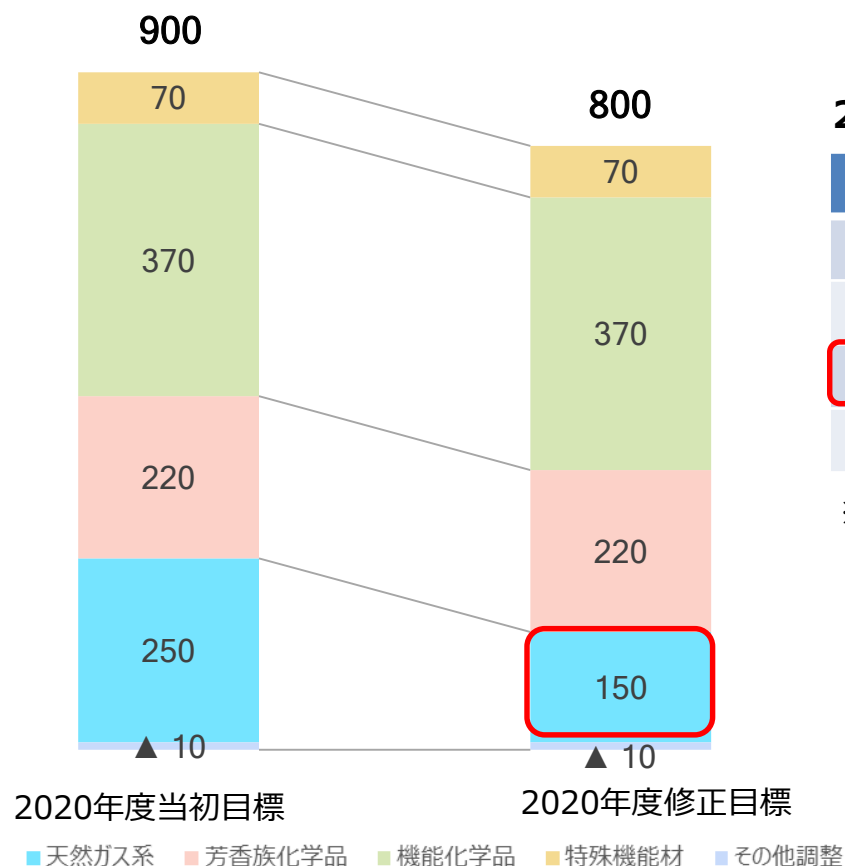
2 | 2019年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | 中期経営計画の目標値修正/メタノール事業について

中期経営計画『MGC Advance2020』最終年度目標修正について

セグメント別 連結経常利益（単位：億円）



2020年度 連結指標

	当初目標(A)※	修正後(B)	増減(B-A)
売上高	7,500億円	7,500億円	—
営業利益	650億円	650億円	—
経常利益	900億円	800億円	△100億円
ROE	12%以上	12%以上	—

※2018年5月9日公表

中期経営計画 数値目標修正の理由

経常利益：▲100億円

- **本中期経営計画策定時には織り込むことが困難であったサウジアラビアメタノール合弁事業の枠組み変更を反映**

⇒サウジアラビアメタノール合弁事業の持分比率の減少および合弁事業延長対価の償却費用計上を反映し、持分法利益を減額

※中計の基本方針、施策、前提条件等その他の事項については、変更ございません。

中計の5つの施策は不変：戦略投資の実行、新規事業創出の加速で収益力を向上

- 3か年累計投融資計画「2,000億円」
- 3か年累計研究開発費計画「660億円」

1. 中核事業を中心とした既存事業の収益力強化

- MXDA生産能力増強等、既存事業基盤強化に資する戦略投資の積極的実行

2. 新規事業の創出と育成

- 研究体制の拡充/事業部間、カンパニー間のシナジー追求/オープンイノベーション、事業アライアンス、M&A

3. 最適な事業ポートフォリオに向けた投資戦略の実行

- 「既存事業の収益力強化」「新規事業の創出と育成」を進めることで、外部環境の変化に左右されない最適な事業ポートフォリオを構築

4. MGCグループ一体となった経営

5. 持続的成長を支える〈質〉の向上

AR-RAZI事業継続の効果

0. 日本へのメタノール調達枠組のJSMC※としての維持 ※日本・サウジアラビアメタノール社

1. メタノール世界戦略としての活用

中東地区にプラントを保有、
グローバル生産拠点として活用

メタノール引取権の確保

2. メタノール事業等の今後のさらなる発展

新技術による
メタノール設備更新も検討

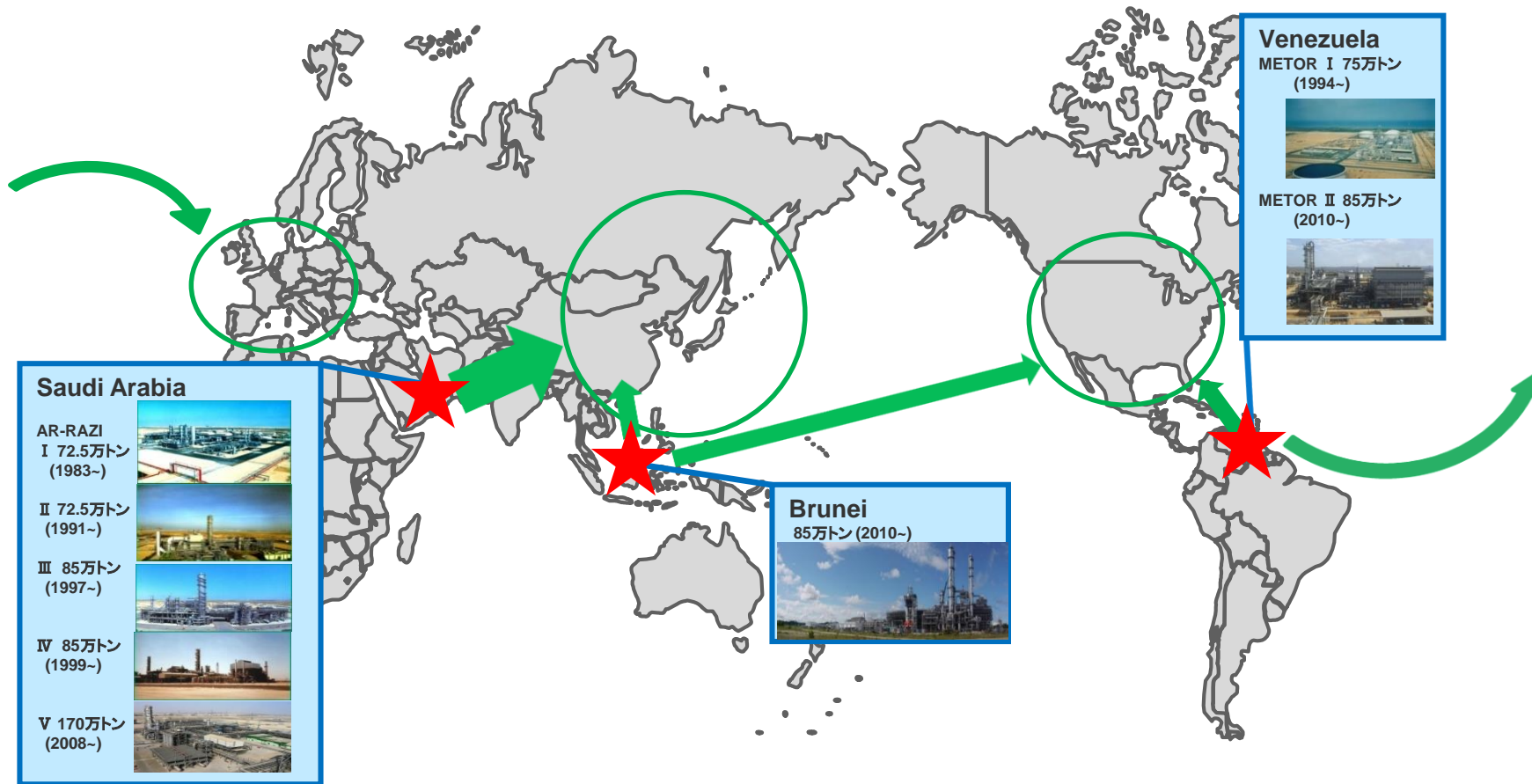
SABIC社との40年にわたる
協業関係の継続

3. メタノール事業の収益確保

(競争力ある天然ガスによる)
安定したオペレーション実績

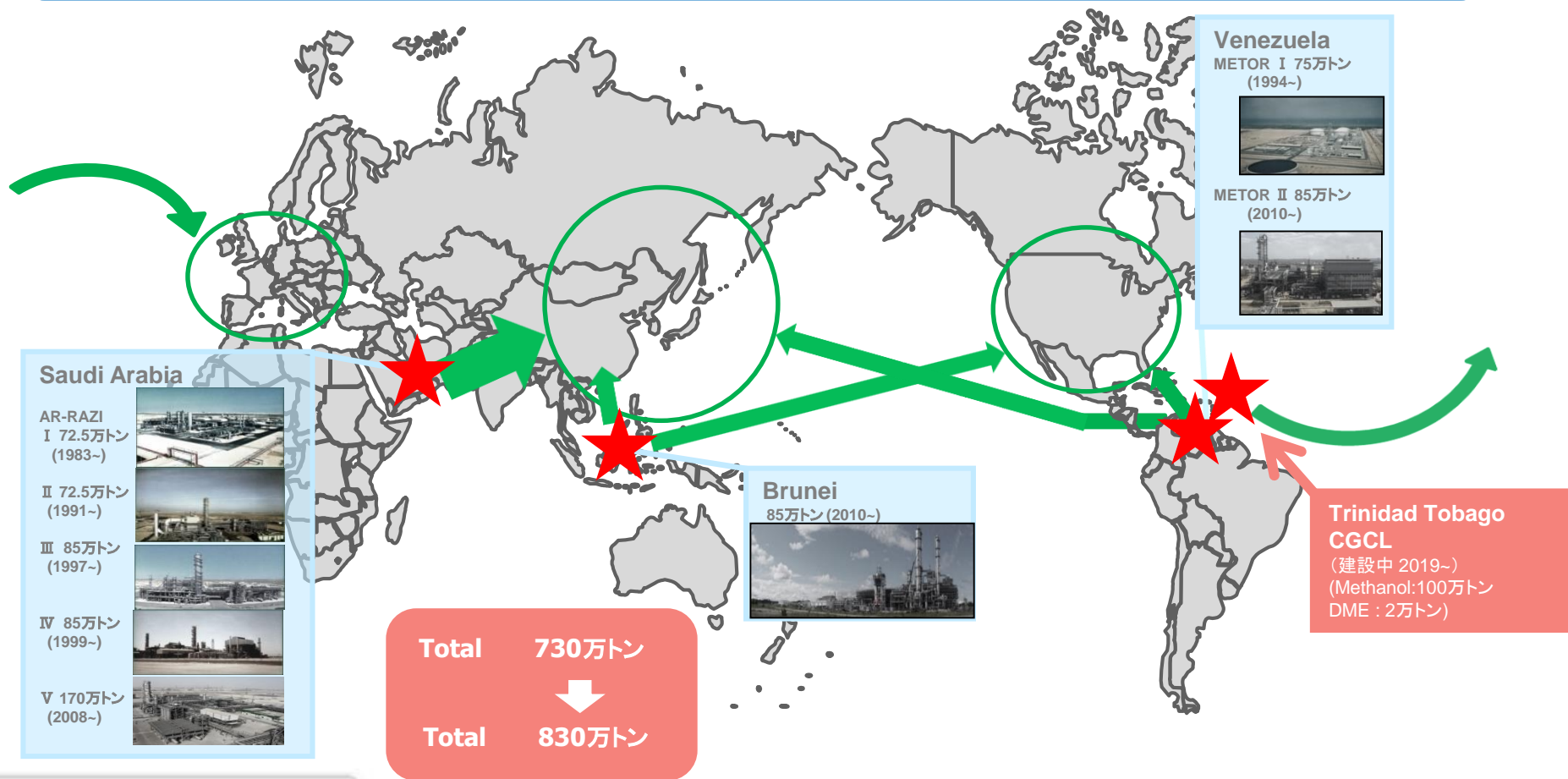
新設案件やM&Aよりも有利な条件

参考：MGCのメタノール生産拠点(～2018年度)



参考：MGCのメタノール生産拠点(2019年度～)

2019年にトリニダード・トバゴのプラントが稼働予定
競争力のあるサウジアラビアの拠点を維持し、グローバルポートフォリオを構築



Appendix

参考： 各種指標（1）

【単位：億円】

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019 (予)
設備投資額 (上期)	354 (146)	424 (224)	309 (177)	254 (138)	222 (103)	305 (149)	350 (137)	309 (139)	392 (186)	500 (250)
減価償却費 (上期)	290 (138)	277 (134)	230 (107)	235 (114)	237 (115)	267 (131)	256 (122)	270 (131)	274 (135)	290 (140)
研究開発費 (上期)	164 (74)	174 (88)	151 (72)	161 (80)	168 (80)	189 (92)	192 (96)	189 (95)	186 (91)	210 (105)
年度末人員(人)	4,979	5,216	5,323	5,445	8,254	8,176	8,034	8,009	8,276	8,508
一株当たり当期純利益 (円/株)*	84	55	▲35	66	192	154	222	281	257	161
総資産経常利益率 (%)	6.5	4.5	4.6	4.8	5.8	5.9	8.4	10.6	8.7	5.5
自己資本当期利益率 (%)	6.9	4.4	▲2.8	5.0	12.6	9.0	12.0	13.6	11.3	6.7
配当金(円/株)* (うち2Q末)	16.0 (8.0)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	28.0 (14.0)	32.0 (16.0)	38.0 (16.0)	59.0 (24.0)	70.0 (35.0)	70.0 (35.0)

*当社は2016年10月1日に株式併合（2株→1株）を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

参考： 各種指標 (2) セグメント別 設備投資額・減価償却費 (連結)

【単位：億円】

年度		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019 (予)
設備投資額(※)	天然ガス系化学品	140	139	63	45	57	53	90	60	57	90
	芳香族化学品	45	47	57	23	40	106	105	113	146	150
	機能化学品	148	216	150	112	76	99	81	110	144	180
	特殊機能材	18	18	33	66	43	38	66	19	23	40
	その他	3	1	3	5	3	7	5	6	21	40
	合計	354	424	309	254	222	305	350	309	392	500
減価償却費	天然ガス系化学品	86	77	62	63	69	61	50	51	55	60
	芳香族化学品	78	77	58	41	39	82	85	85	87	90
	機能化学品	80	84	77	95	92	88	86	91	87	90
	特殊機能材	42	35	27	31	33	30	30	35	36	40
	その他	4	3	3	3	3	3	3	5	8	10
	合計	290	277	230	235	237	267	256	270	274	290

※固定資産計上ベース

参考： 各種指標 (3)

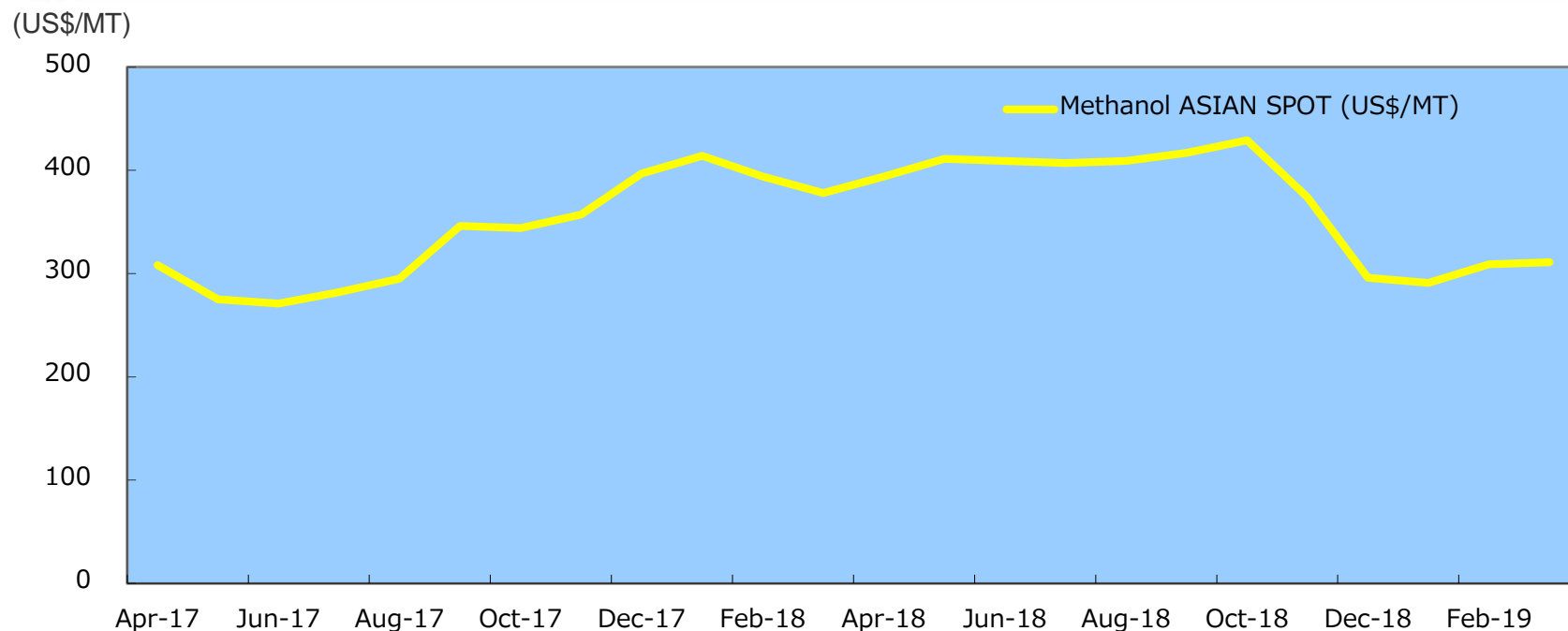
	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度 (予想)
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
為替(JPY/USD)	122	118	105	112	111	111	110	112	110
為替(JPY/EUR)	135	130	118	119	126	133	130	127	125
原油価格(Dubai) (US\$/BBL)	56	36	43	51	50	62	73	65	70
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	301	230	230	327	296	381	408	335	350
原料キシレン (US\$/MT)	740	630	660	680	650	725	845	730	800
ビスフェノールA (US\$/MT)*	950 ~1,500	850 ~1,100	1,000 ~1,200	1,000 ~1,400	1,100 ~1,300	1,200 ~1,700	1,600 ~1,900	1,200 ~1,800	1,200 ~1,700
ポリカーボネート (US\$/MT)*	2,100 ~2,650	2,000 ~2,400	2,200 ~2,500	2,400 ~2,800	2,500 ~2,900	2,900 ~3,900	2,700 ~3,800	2,100 ~2,800	2,000 ~2,500

*期間中の最小値および最大値を記載

感応度 (概算)

- 為替 (USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益7億円/年、経常利益9億円/年の減益 (増益)
 為替 (EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益0.6億円/年、経常利益0.6億円/年の減益 (増益)
 原油(Dubai) : 1\$/BBLの上昇(下落)で、2億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず
 メタノール : メタノール市況1\$/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

参考：メタノール市況の推移



2018年度実績：371 US\$/MT

需要：上期は堅調に推移。11月以降、オレフィン市況の下落により中国MTO※の稼働率が低下。1月以降緩やかに回復。

供給：6月末に米国（170万MT/Y）、9月末にイラン（165万MT/Y）の新規プラントが稼働。 ※Methanol To Olefin

2019年度予想：350 US\$/MT

需要：2-3基のMTO新設が見込まれ、需要増を見込む。

供給：下期にトリニダード・トバゴ（100万MT/Y）の稼働を予定。

参考： トピックスー1

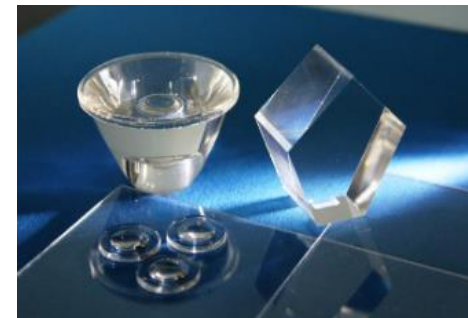
光学材料事業部の新設

各種関連製品の開発・生産管理・販売を一体化し、顧客提案力や開発力を強化

当社は、2019年4月1日付で、光学材料製品を集約し、光の制御というソリューションに立脚した事業展開を進めるべく、「光学材料事業部」を新設しました。

近年、情報デバイスにおける高性能カメラの搭載、車載カメラのセンシング用途への拡大など、光学関連市場は広がりを見せており、今後も更なる伸長が期待されます。当社はこれまで、スマートフォン等のカメラレンズに使用される特殊ポリカーボネート樹脂「ユピゼータ®」や、世界最高レベルの屈折率を有するプラスチックレンズ材料をはじめとする多くの光学材料製品を展開していましたが、これらは別々の事業部に所属しておりました。これら各種関連製品を一つの事業部に取りまとめ、開発・生産管理・販売を一体化することでお客様のニーズに合致した最適なソリューションとなる材料のご提案、柔軟な研究開発を実現してまいります。

【光学材料事業部で取り扱う製品例】



左から) 特殊ポリカーボネート樹脂「ユピゼータ®」、プラスチックレンズモノマー、アクリル系樹脂「Optimas®」

参考： トピックスー2

IRサイトランキング表彰

化学業界にて一位の評価

当社WEBサイトは2018年5月に全面的にリニューアルしましたが、「Gomez IRサイトランキング2018」（モーニングスター(株)選定）において、全上場企業3,626社のうち31位の評価を受け銀賞を受賞するとともに、業種別（化学）では1位の評価を受けました。特に「使いやすさ」では全体16位の評価をいただいております。

他にも、大和インベスター・リレーションズ(株)「インターネットIR表彰」において優良賞を、日興アイ・アール(株)「ホームページ充実度ランキング」においても最優秀賞を受賞しました。ぜひ皆様にご利用いただければ幸いです。



新潟市アイスアリーナのネーミングライツ取得

（愛称／MGC三菱ガス化学 アイスアリーナ）

新潟市に根差した企業として地域に貢献

新潟市には当社新潟工場をはじめ、(株)東邦アーステックや(株)日本ファインケムなど多数のグループ会社があり、当社は新潟市と長期にわたって深い関わりがあります。この度、当社は新潟市とアイスアリーナのネーミングライツパートナー契約を締結し、愛称を「MGC三菱ガス化学 アイスアリーナ」と決定いたしました。

新潟市アイスアリーナは本州日本海側唯一の通年利用可能な屋内型のスケートリンクで、フィギュアスケート、カーリングなどの国際規格に対応したアイスリンクを有しており、年間10万人以上が利用するほか、様々な競技会などが開催されています。



<アイスアリーナ外観イメージ>

お問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社

広報 I R 部

TEL 03-3283-5041

www.mgc.co.jp

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

社会と分かち合える価値の創造

 三菱ガス化学株式会社

MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.